

避難時の心得と携帯すると便利な物品について

大地震発生時に便利な防災グッズが市販されておりますので、家庭の必需品と考え備蓄しておくことで便利です。消費期限のある飲食物や医薬品等が入っていますが、防災上の心得として年に一度は点検し消費期限の過ぎた物品は逐次交換しておきましょう。地震は突発的のため予測はできませんが、台風や大雨といった水災は事前に予測が可能ですから携帯品の選別が出来ます。気象情報に注意して避難の準備をして下さい。



1. 避難者は避難先と避難経路の確認をしましょう。避難する場所は公設の避難場所だけでなく、近隣の親戚宅や知人宅の方が良い場合があります。
2. 避難する場合は、出来るだけ集団となって行動し子供さんや高齢者及び身体の不自由な人を中心として移動しましょう。避難時に水深のある場所を通過する場合は、ロープで結び合う事も必要です。
3. 車で避難する場合は、出来る限り道路の中心部を一定の速度で進行します。アンダーパスや高低差のある交差点への進入は絶対に避けて下さい。
4. ペットを連れて避難する場合は、必ずケージに収容して下さい。この場合は一般の避難者とは別の場所になります。
5. 避難場所には飲食物の備蓄はありません、飲料やカップ麺・お菓子類等の軽食を持参すると便利です。(湯沸器具は備蓄してあります。)
6. 雨によって着衣が濡れて避難してから困ることがあります。着替え用の衣類や靴下は必需品です。
7. 新型コロナウイルス対策のため避難場所には、マスクや消毒液等々ある程度は備蓄しておりますが十分ではありませんので、各人で使用するためにご持参下さい。
8. 避難場所は新型コロナ対策のため、入館時から受付・休憩場所にまで、たくさんの規制があり、ご不便をお掛けする場合がありますが、感染防止を徹底し避難者の「安全と安心」の為に協力ください。

新設の「交通防犯部」について

交通防犯部長 江口基明

昨年度まで、小山地区自治連の各部会については「交通部」「防犯環境部」「防災部」「広報部」の四部制でしたが、活動の内容が重複することもあり「交通部」「防犯環境部」を一本化して「交通防犯部」として発足することになりました。

ご承知のように今年度につきましては新型コロナウイルス禍により、相模原市からの活動及び多人数が集まる会議については、なるべく自粛するようとの協力依頼があり、上半期の活動計画が実行できず現在に至っております。後半の事業の取り組みについて、コロナ禍を勘案しながら、可能な限り、交通事故防止運動として高齢者・学童の自転車運転走行、交通マナー、相模原警察による講話、実技指導など部会員による街頭での交通安全啓発活動、青パトでの交通安全パトロール、防犯活動については、両隣声掛け運動、犯罪に合わないための勉強会、専門家による講話、部会員による青パトでの防犯巡回パトロールなど。また街頭での防犯啓発運動などを実施できればと考えております。これらの活動を通して地区内にお住まいの皆様方が犯罪や事故に遭わないように《安全で安心して明るく楽しい小山地区のまちづくり》の一助になればと部会員一同使命感を持って取り組んでまいります。

令和2年度関東管区警察局長関東交通安全協会連合会会長連名表彰

10月12日相模原警察署で地域において交通安全活動や信号機の新設等の推進に積極的に努め、交通事故防止に功績があったと認められ、また、長年にわたり安全運転に努めた無事故無違反の優良運転者に対して、上記の表彰が行われ、神奈川県下で31名、うち相模原警察署管内では1名小山地区自治会連合会の安藤会長が相模原警察署長、相模原交通安全協会会長から表彰を受けました。



令和2年度 交通防犯部の皆さん

ラジオ体操やっています 相模原駅前自治会

市営駐車場隣の相模原駅前公園で、毎週水曜日8時から、第一、第二、みんなの体操を実施中です。3本の旗を目印に近隣の方約20人が集まります。新型コロナウイルスに感染しない体を作るためには、基礎体力を高めることが大切で、誰でもできるラジオ体操は大変効果的で、続けることにより体力の増加につながります。ソーシャルディスタンス云々で自宅にこもりがちになりますが、体操会に参加することで、仲間とお話が出来て気分爽快、皆さん明るい顔で帰路につきます。

駅前ラジオ体操会はどなたでも自由に参加できます、あなたも一度来てみませんか。



さりげない見守り活動 宮下自治会

宮下自治会では平成23年度から「向こう三軒両隣」を合言葉に高齢者の「さりげない見守り活動」を実施して来ましたが、きっかけは、当時テレビ、新聞等で「孤独死」の報道をよく目にし、自治会の中から『孤独死者』だけは出さないとの思いが始まりました。希望者を募るにあたり小山高齢者支援センター及び地区民生委員の方々にご協力を頂き、また自治会独自でパンフレットを各戸に配布し希望者を募り、面談し家族構成及び非常時の連絡先等を確認した上で、近隣の方に見守りをお願いして来ましたが、

発足当初から見守り希望者は延べ17名を約87名の協力者に見守って頂きました。毎年見守り協力者、小山高齢者支援センターと宮下自治会で懇談会を開催し「現状の報告、見守りの上での不安、今後への問題」等話し合ってきました。これからも「向こう三軒両隣」を合言葉に「さりげない見守り活動」を充実させていきたいと思っております。



自粛生活の中でホットな活動

すすきの向陽自治会

令和2年、誰もが予想しなかったコロナウイルスで社会全体の歯車が狂い恐怖と、自粛生活が始まり、私達の自治会も全ての行事が中止になりました。地域の方々との交流、人と人との交流が出来ない中、このような状況でも何か出来ないか・・・

ある日自治会に、子ども会役員の方々から、自粛生活で発生した大量のゴミを回収している作業員の方々に、お礼と感謝の気持ちを込めたポスターを作ろうとの話がありました。大変素晴らしい活動なので、即実施をいたしました。今、私たち自治会の全てのゴミ置き場には子ども達(1年生～6年生、計24名)一人一人が自由に心を込めて作ったポスターが輝いています。自粛生活がまだまだ続き、人と人とのふれあいが難しい中、心のふれあいや繋がりが出来たと感じています。



くぼはらロードギャラリー

久保原自治会

1月半ばより猛威を振るっている新型コロナウイルス。様々な行事も中止になりました。いつになく自治会の掲示板は寂しげでした。「空いている掲示板を自治会の皆さんのギャラリーに変えましょう。」と役員で話し合いました。5月からの2か月間、自治会の皆さんに呼びかけてコロナの川柳や塗り絵などの作品、自作のマスクの写真、久保原内で実施しているダンス教室の紹介、子どもたちの絵など賑やかに飾られ「歩くのが楽しみ！」と他地区の方からも声が聞かれました。またマスクが出回らなかった4月、自治会の基金積み立て金を活用し、一世帯50枚のマスクを配布し自治会員の不安解消と感染予防に努めました。皆で集える時が早く来ますよう願っています。

